大阪天滿宮社報 第57号

てんまてんじん





并首御唐

庚寅元旦

S.		
芝		
S		
T		E (3
Ŕ		
K		£ (3
Ó		787 C
		EC
30		
		£ (3
		ECE
S		
S		
2		13
35		35
		22
3		
		6
3		N.
Ş		
Ŋ	959	3
Ş	8 4	
Ş		12
첫	A PARTIE A	
S		2
S		3-7
		(E)
Ş		
慧		
Š		
		25
S		
	行者	李达
(3	行者分更是	2
	11 中来	
(4	# 7 G	
60/		THE PERSON NAMED IN
83		170

前宮司二十年祭	『坂の上の雲』と近藤南州12	御迎人形調査	父、増田耕南のこと8	「梅まつり」予告6	「えびす祭」予告4	綱敷天神と梅の瑞枝 3	
頁	頁	頁	頁	頁	頁	頁	

に、その境内に社殿を造って嵯峨天 に太融寺に七道伽藍を造営された際

表紙解説 **今**天

として注目されます。この天神の姿 継ぐ表現ですが、極めて個性的な面 眉などは、「怒り天神」の伝統を受け 世以来、土佐系絵師が粉本をもとに は何に由来するのでしょう。 がった両肩も他には見られない表現 貌として描かれ、また、 大きく見開かれた目やつり上がった は著しく異なった印象を受けます。 量産してきた類型的な束帯天神像と 像ですが、この天神の姿からは、中 束帯姿の坐像として描かれた天神 丸く盛り上

署名が「雀叫法眼春ト一翁/行年八この作品の画面右下には、画家の た重鎮です。「雀��」「一翁」は画号 春トは江戸時代中後期に大阪で活躍 六三〉が描いたことがわかります。 した画家で、 十叟筆」(印)(印)と記され、春ト (一七五九) に当たります。 なわち大岡春ト<一六八○<一七 「法眼」は画家の位階を示す 八十歳の年は宝暦九年 大阪画壇の基礎を築い もの

た天神像が藤井寺市の道明寺天満宮 実は、この天神像ととてもよく似

大岡春卜筆 江戸時代 縦一○四·七㎝ 横三六·一㎝ 大阪天満宮所蔵 絹本著色

大阪工業大学准教授

な描写は両者に共通しています。 丸く盛り上がった両肩など、基本的 も認められますが、 唇の開きが小さいなど、 に所蔵されています。 上畳の上に褥を敷き、 個性的な面貌や 挿図がその天 異なる表現

室 納したことを示しています。 塔頭得寶院と弐之室を執次として奉 春トをはじめとする願主が、道明寺 元年(一七四一)の五月二十五日に 堀氏/同名/宮木氏」「得寶院/弐之 下五日」「願主 裏には「奉納 春トの画号です。この天神像の表装 描いたことがわかります。「雪静」も 家の署名が「法眼春ト (印) とあり、この天神像も春ト 挿図の天神像にも、 執次」と墨書されており、 大岡氏/神谷氏/小 寛保元載/辛酉梅月 ·雪静筆」(印) 画面右下に画 寛保

が大阪で開帳されるに際し、

春トは

菅公自刻と伝えられる御神体の木像

から、

寿尼が住した寺で、菅公は大宰府配した。道明寺は菅原道真公の叔母覚 流の際に当寺に立ち寄っています 分離まで、 道明寺天満宮は、 道明寺天満宮所蔵の『河州 隣接する道明寺と一体で 明治初年の

ます。

修理費用を補填するため、大阪で道 る記述があります。記述によれば、 代の道明寺天満宮の社殿修理に関す 元文五年の翌年です。これらの記事 の表装裏墨書の寛保元年は、 所蔵の天神像でしょう。この天神像 也」とあるのは、この道明寺天満宮 トと申大坂ニてとき名だいの絵師筆 申處(後略)」という仕儀に至ってい の社をかり開帳六十日の内おがませ 当地出立同廿五日より大坂天満神明 なり、「元文五年申ノ年三月廿一日ニ 明寺天満宮の神宝を開帳することに 土師村道明尼律寺記録』に、 これに続く記事に「絵大岡春 道明寺天満宮の神宝すなわち 開帳の 像が他に二幅所蔵されています。

江戸時 するものです。道明寺天満宮に奉納道明寺天満宮の天神木像の姿に由来 | 璃の『菅原伝授手習鑑』「杖折檻」「丞 | *ホットゥロットントットントットット 「ーメ。ロサータトンド | ばしばおこなわれ、木像は人形浄瑠 宮に奉納された天神像の影響を受け 満宮の御神体の開帳は江戸時代にし された天神像は余程有名だったの に示唆を与えたとみられます(註)。 相名残」の段に登場する木像の演出 したものと考えられます。 その姿を描き、 しょう。大阪天満宮には同様の天神 て描かれています。 表紙写真の天神像は、道明寺天満 道明寺天満宮に奉納 個性的な表現は 道明寺天

第35号、 (註) 南坊城光興「『菅原伝授手習鑑』 平成14年6月 12 日

で



天神像 道明寺天満宮所蔵

梅をたいそう賞でられたと伝えられ 地にもお立ち寄りになり、この地の 菅公は太宰府に向かう途中に、この 町、堂山町などの町名が残ります。 創建されたと伝えられます。 つて寺内であった名残として、 太融寺のある辺りには、 神山 か

を 後世に伝えられることになりました。 菅公が愛でた梅は後に「梅塚」として を伝える「綱敷天神社」 と称するようになりました。そして ったという伝承によって、 づな)を丸く敷き廻してお座りにな に、お使いになった船の艫綱(とも 去されるのですが、 なお、 その後、菅公は太宰府において薨 中心に広まっています。 同社以外にも、 お立ち寄りの際 は、 同様の由緒 綱敷 西日本

宮の西北にも、古くは北野村と称さ 神様の細道はあるものなのです。当

れた地に「綱敷天神社」(北区神山町)

があります。

そこで当宮の天神祭と綱敷天神社

はお稲荷さま、次は八幡さま、その

ます。

われますが、そのうち一番多い

0)

全国には神社が八万社

上あると

「梅の瑞枝」

敷天神社と

次が天神さまだといわれています。

ですから、全国どこへ行っても天

☆「梅ヶ枝町」の御旅所

神様ですが、他にもいくつかの御末

相殿社をお祀りされています。

同社の御祭神は、嵯峨天皇様と天

ましたので、ご紹介しましょ には興味深い関係があるとお聞きし

●綱敷天神社のご由緒

ある源融公が、承和十年(八四三)

ご創建は古く、

嵯峨天皇の皇子で

当宮の氏子地域です。 現在の西天満六丁目)に移され、数明治五年に才田の地(後の梅ヶ枝町 至っています。この 年後には現在の茶屋町に移り現在に は太融寺町の梅塚にありましたが、 綱敷天神社の御旅所は、もともと 「梅ヶ枝町」は、

は定かではありませんが、 この梅塚の地と、 梅ヶ枝町の関係 現在も綱

先立つ弘仁十二年(八二一)に、

ています。なお、太融寺は、これに 皇をお祀りされたのが始まりとされ

> ます。 敷天神社の氏子地域にふくま れて Vi

天神祭の梅の瑞枝奉献

この梅

た西田直二郎博士は次のように述べ に関することです。 戦前に綱敷天神社の由緒を調査 さて、興味深いお話とは、

ています。

『大阪北区天満天神社の有名なる

すが、その由来について書かれた文神様の仲立ちとして用いているので が西天満にあった時期にも、 そうです。また、その時には当宮か 特に清浄に管理された梅の瑞枝を、 祭」に使われます。現在は、 儀式のうち、最も重要な「神霊移御 瑞枝は授与されていたのでしょうか。 ると思います。綱敷天神社の御旅所 搬手段としては納得のいく伝承であ しにくい梅の枝ですから、 の筒を持参していたらしく、 ら神職と稚児(神童)が参上して竹 ていたという伝承を記憶されていた 社から天神祭の「梅の瑞枝」を頂い 殿に祀り、後渡御を行ふを古例とす。』 ず、この梅樹の一枝を折り来たり神 神輿渡御の祭事にあたりては必ず先 この「梅の瑞枝」は、 前宮司の故白江順氏も、 天神祭の諸 往時の運 綱敷天神 境内で 梅塚の

> じていたのですが、 記録されていないことを不思議に感 5 書は一切ありませんでした。以前か たのです。 このような重要なことについて ここに謎が解け

は、 敷天神社から授与されたものを用 る慣例だったのです。 「神霊移御祭」 当宮で準備するのではなく、 に使用する梅の 13

天神社とのご縁がより深まることを したいと思います。と同時に、綱敷 したうえで、古儀復興の足がかりに 今後は、当宮における史料を精査 たいと思います



瑞枝の童児

六十一年発行) 参考資料『綱敷天神社誌』 (禰宜

- 3 -

福笹授与。

同所において

午後六時半

て鏡開き・振舞 ル本館前におい 新地本通大川ビ 北新地到着。北 西天満へ向かい 街二丁目を経て 前を通過。商店 天満天神繁昌亭

午後八時

えびす祭」を斎行いたします。復興 本年も一月八日から、 「天満天神 ふくよかなニコニ

四年目の今年は、これまでにない新 のお参りをお待ちしております。 たな試みを企画し、より多くの方々

御神酒笑姿キャラクターロゴ奉纳

コ顔がなんとも印象的でれ頬を赤らめた、ふくよ

招福行列も二年目

ましたが、昭和二十三年の「えびす 籠(ほえかご)行列」が奉納されてい 祭」を最後に中絶しておりました。 そこで、昨年の一月八日には、当 (一七0四~一0) 「えびす祭」には、 以来、 「宝永

ロゴを御奉納いただきました。

「御神酒笑姿」のキャラクター

当宮氏子の大隈修造様

御神酒徳利を手にし、

お酒に酔わ

大いに盛り上げていただきました。 翌日からの「えびす祭」の前景気を が乗って、その道中は大いに賑わい に北新地クイーンと準クイーン二名 北新地平田席の芸妓さん二名、さら 匠が乗り込まれ、続く人力車には、 す詣招福行列」を復興しました。 「赤い人力車」に三代目桂春團治師 当日は、初代桂春團治に縁りの

に第二回「堂島北新地えびす詣招福 そして「招福行列」二年目となる 昨年と同じく一月八日(金)

堂島北新地限定総飾お札付き福笹 瞳さん、 地クイ さん、二代目北新 輔師匠をはじめ、 の皆様方にご奉仕 ーンのかりなさん 子さんと、 (きよかず) ーンのあや 由美さん 準クイ



宝永年 に その道中の様子は、テレビや新聞で も大きく報道されましたのでご記憶

行列」を斎行いたします。 の方も多いかと思います。

芸妓のさく与さん、





福笹授与場所 北新地本通り 「大川ビル本館前

一八時半~二〇時

お知らせ

数多くの御奉賛をお うことになりました。 奉賛吉兆の授与を行 り福笹、並びに特別 神酒笑姿』付き総飾 島北新地限定の『御 本年から新しく堂

午後五時十五分

北門を出発し

盛祈願祭を執行し「福笹」を授与 当宮へ宮入。本殿において商売繁 て天神橋筋商店街一丁目南口から

宵えびす

九時四十五分

 宵宮祭 遷幸之儀

一〇時

吉兆・縁起物授与

西天満町内

「老松通り」

を経 を出

• 行列

四時

一八時

残り福

福笹授与

一八時半

-~二〇時

報賽祭・還幸之儀

二一時

吉兆・縁起物授与

月十一日(月)

堂島北新地えびす詣招福行列

月八日(金)

招福行列の行程

◆齋行日程

本えびす

一月十日(日)

大祭

一〇時

特別奉賛の

吉兆・縁起物授与

待ち申し上げており

[福笹] 初穂料

までに御予約の方(十二月二十五日 は八千円)

◆「御神酒えびすみこし」を新

たな試みとして、 また、本年の招福行列における新 『御神酒えびすみ

装いも新たに「堂島北新地えび

宝永籠を人力車に変え

こし』を新調致しました。 は両手に御神酒徳利を手にした高さ メートルのえびす様が座しており 神輿の四方を福笹で飾り、

授かっていただきたいと思います。 昨年に増してより賑やかな行列にな 御名札を掲げ道中にて広告致します 奉賛いただきました企業・団体様の この大きなえびす様の参加により 神輿の両側には「招福行列」にご 数多くの方々がたくさんの福を

- 4 -

前年からの流れを継続しつつ、

三つは「更新」を表します。

つまり、 清算

つは「継承・継続」、二つは「償う」、

「庚」は、三つの意味を持ち、一

ら)」です。

っているようです。

さて、今年は「庚寅(かのえ・と

の政治がどの方向に伸びるかにかか

なければならない年を意味していま すべきは清算し、思い切って更新し



まつり」は、今年で第七回目を迎え 恒例となりました「てんま天神梅

紹介いたしましょう。 その概要がきまりましたので、

大盆梅展 〜天神さんと梅〜

当宮参集殿

において、 各種五〇鉢以 上の銘木を展 じめ、その他 える古木をは 齢二百年を越 樹



示します。 も合わせて展示致します [御迎人形] また、 『引き札(明治期の広告)』など 当宮所蔵の (大阪府指定文化財) 『天神画像』

丹精こめてご用意しております。 います「梅の木餅」も、当宮巫女が もちろん毎年ご好評をいただいて

午前九時半

拝観延長日 二月一四日(日)・

拝観料 以下は無料) 大人五百円(小学生三百円。

◇ 夜間イベント『勧進御能

をお楽しみ下さい。 日時 「盆梅展」とともに、雅なひと 二月一一日(木)

午後六時~午後八時

場所 本殿

奉仕者 入場料 観世流朝暘会館 有料 (要予約)



~二月二八日(日) ~午後四時

0

午後五時まで延長。 の三日間。

仮設茶寮を設け、

○骨董市

期間 二月八日(月)~一四日(日)

日 二月一一日(木)

受 場

参加料 男子=三千円

手作り小物教室

作 袋・貝ストラップ・人形スト

参加料 三百円~五百円

梅の模様をあしらった小物(巾着 りをご体験いただけます。 -ラップ)

二月一四日(日) 二八日(日)

午前一〇時~午後三時

物を取りそろえ皆様をお迎え致しま 梅をモチーフにした様々なお土産 梅まつり土産販売(開催期間中)

召し上がりいただけます。 軽食(梅うどん・おでん)などもお 梅を取り入れた

午前一〇時~午後四時

当日午前十時 大阪天満宮梅香学院三階

0 陶器市 期 間

舞い餅。 当宮の

日 午前一〇時

その他の催し物

○オープンカフェ(開催期間中)

○ 第五回オ-ル大阪大会アームレスリング選手権

午後一二時~午後四時

~午前十一時

女子=二千円

所 境内北側テント

場

本一の梅酒を選ぶ選考会にもご参加 ただけます。 全国から様々な梅酒が大集合。 Н

期間 二月一五日(月)

午前一〇時~午後四時 ~] | | 日(日)

0 日 水墨画奉納式 二月一九日(金)

0 水墨画体験 場所、本即 本殿前特設舞台 午後一時~

H 二月二0日 (土) 午前一〇時~午後四時

○アートクラフト市 参加料 無料

- 6 -

ラフ 期間 関西で活躍するアーティ ト作家の作品市。 二月二二日(月) ストやク

✓二八日(日)

午前一〇時~午後四時

午前一〇時~午後四時 ,二八日(日)

二月二二日(月)

振る舞い梅餅 「青年親睦会」による振る

時 二月二八日(日)

それぞれの時務を進められることを ます。皆様が、敬みの心をもって、 慎みながら時務を進めなければなら ない戒めを意味していることになり らの流れを受け継ぎながらも、畏れ ならないという戒めなのです。 て、畏れ慎む心を大切にしなければ のです。裏を返せば、 きの急務)を進める姿を表している す。畏れ慎みながら、時務(そのとく」という語義を持ち合わせていま 繁栄させるには、その弊害を考え そこで今年の「庚寅」は、前年か 世の中を進歩

今年の干支絵馬

庚寅(かのえ・とら)

平成庚寅歲時信

することを示す象形文字で、

「敬む

「寅」は、人が手を合わせて約束

(つつしむ)」とともに、

「進む・動

(安岡正篤大人の著書より)

行われましたが、その成否は、今年的には戦後初といわれる政権交代が

区切りを付けて、真っ直ぐに伸びる

前年までの屈折、紛乱した動きに

べき年でした。事実、政界では実質

うし)」でした。

昨年の干支は「己丑(つちのと

浪速管廟吟社詠草

れない愁い

蛩=晩秋に鳴くこおろぎ。結秋=晴 草葺きの家。自分の家の謙譲語。寒

九月席題 「新秋夜坐」分韻

る、 坐し煎を換え茶一啜、 (訓読)虫声喞喞として君を送って帰 靜坐換煎茶一啜 蟲聲唧唧送君歸 心事蕭然竹扉をとざす。 得微 流攝 新涼軒下月沾衣 心事蕭然鎖竹扉 新涼軒下月衣とざす。静かに 菅 千鶴子

> を閉めた。静かに坐り茶の葉を換えって還ってきた、心寂しく粗末な扉 飲むと新秋の軒端に月が衣を濡らす (詩意)虫の音を聞きながら貴男を送 =月の光が衣をうるおすようだ。 さびしげ。竹扉=粗末な扉。月沾衣 (語釈)心事=心に思うこと。蕭然= 静かに坐り茶の葉を換え

十月課題 「深秋看菊」

ること。

(詩意)人気のない庭にも秋が深まり

りたいという夢。飛楓=楓が飛び散夕日。友生=友人。帰夢=故郷に帰

(語釈)空庭=人気のない庭。斜日=

たりて風陣陣、飛楓一片吟情を促す 鐘を聞けば友生を懷う。帰夢醒め来 (訓読)空庭秋尽きて暮天晴れ、

斜日

歸夢醒來風陣陣

飛楓一片促吟情

(語釈) 霜柯=霜をおびた枝。草屋= 和らげしむ。 し孤月籬垣の畔、 久しうして未だ声休まず。庭に過り (訓読)枯葉霜柯 過庭孤月籬垣畔 枯葉霜柯草屋秋 草屋の秋、寒蛩夜 幽菊 漫ろに結愁を 悠山 寒蛩夜久未聲休 幽菊漫教和結愁 達也

晴れない心を和らげてくれる。 あたりに輝いている。菊の花は私の ている。月が庭先を過ぎって垣根の 我が家の秋、晩秋の蟋蟀がまだ鳴い (詩意)木の葉は枯れ霜が降る粗末な

空庭秋盡暮天晴 庚韻 二 ·一月席題 「晩秋即事」 晴 斜日聞鐘懷友生三山 河合 一岳 分韻

> そして鐘の音をきけば故郷の友人の 風がジンジンと吹いて、 事が思われる。帰郷の夢が覚めた時 夕暮れの空は晴れ、 に詩情を促された。 斜めに射す陽光 飛び散る楓

十二月課題 「時事偶成」

に臨観す。 四季に宜しく、襟を正して白首静か 半ば慶びまた不安なり。家國の山河 (訓読)維新これ見る日東の壇、 家國山河宜四季 維新是見日東壇 正襟白首靜臨觀 億兆半慶還不安 億兆

日東=日本のこと。 (語釈)維新=旧体制が替わること。

行きを静かに臨み見ることに致しま ぐり、白髪の私は謹んで国家の成り 不安を抱いている。 (詩意) 政権が替わり国民は慶びまた 国土の四季はめ

引揚げ後の生活

った。この手記の要約が八月二十二

朝日新聞奈良版に掲載された。

壮大なドラマを見終わったような感 るようだった。入力作業を終えた時、 スリップして私も一緒に体験してい

狐につままれたようだった。その字

つやねん」

あった。自分しか見な

などの書き込みが

い本なのに一体誰?と、

しばらく動くことができなか

笛の仕事で生計を立てていた。テレ社大阪分院に勤め、結婚式の神主や

私の記憶では帰国後の父は出雲大

私が初めて父、増田政雄耕南(一

増田耕南の、

天满宫夏渡御回」

ていたが、 絵が放映された折、 びとなった。 一司先生のご協力を得て、撮影の運のご尽力と長女の恩師である日下部 〇〇一年夏、天満宮の近江晴子先生 は一九三六年六月に奉納されている。 を抱いてついて行ったのだ。この絵 招待された。その時私も一歳の長女 夏渡御図」を見たのは三十六年前、 九〇二~一九九四)の「大阪天満宮 レビ「ふるさとの歌まつり」 一九七三年のことである。 それ以来この絵を撮りたいと思っ 両親が逝って数年後の二 両親が天満宮に N H K テ でこの

六·九 cm、 と感傷的になった。まるで死んだ父 度とこの絵を見ることはないだろう を棺に納めているような錯覚に捉わ 夫も仕事を抜け出して来た。 った。長い時間かかって撮影が終わ 当日は東京在住の次女も駆けつけ、 八年前の記憶よりはるかに大きか ・軸を箱へ納める時、 横一七二・七㎝の絵は二 もう!! 縦一三

> れた。 眩むような栄誉である。 川広重と一緒に父の絵が収められて に送られて来た本には葛飾北斎や歌 満宮夏渡御図」が収録された。暮れ れた『天神祭―火と水の都市祭礼』 大学総合学術博物館教授)からお電 建設準備室の橋爪節也先生(現大阪 か、一ヶ月後、大阪市立近代美術館 いる。父が夢にも思わなかった目の (大阪天満宮文化研究所篇)に「天 これがきっかけになったのだろう いただいた。そして秋に出版さ

府祭祀府に勤め、伶官(雅楽員)と たのである。祭礼の時、 して篠笛、龍笛、笙などを吹いてい の勝部神社へ赴き、 を患った父はその後療養を兼ね滋賀 所で始まったと聞いている。 六年に母と結婚し、新婚生活はお旅 (中国東北部) へ渡った。 御霊神社の神職だった父は一九三 四二年に旧満州 神前に玉串 肺浸潤 国政

> そして一九四五年、日本の敗戦と同を渡されたことは何回も聞いている。 その留守中に母が自決用の青酸カリ 無条件降伏の直前に父が召集され、 を捧げる皇帝溥儀は背が高く色白で 「まるで錦絵から抜け出たようであ た」と父は述懐していた。日本の

0

式の神主の仕事や看板、お酒のラベルや春画を描いて糊口をしのいだらしい。家族が住んでいた新京(長春市)は比較的治安が良かったらしいが、春和でも旧ソ連兵の掠奪が度々あり、命の危険を何回も味わったそうだ。敗戦翌年一月、時房も切れ、水道管の凍った 業した。 浦賀に着いたのだ。これらの ことは父が私に託した「或る と名づけられた。そして七ヶ めでたい曲「慶徳」から「慶子」 時に満州国は崩壊し、 両親と五歳の兄と共に 生活が困窮し、 父は失 結婚

> 争体験文を募集すると聞き、急遽 "解読"を始めた。浮世離れした父が の字を読むのはヒエログリフ文字の 分を二日で書き上げたのである。父 て気持が高揚した勢いでノー 父が映画「ラストエンペラー」を見 満州引揚者の手記」 この手記は二十年前の一九八九年 家族のために 朝日新聞が戦 ずっと放って いてある。 ト 一冊

子

をパソコンに入力しながら、 苦労したことがよくわかった。 水や燃料の調達など、 解読よりむつかしく、 いたが、二〇〇二年、



昭和11年(1936) 増田政雄・末子 結婚式

- 8 -

たのだろう。 「絵を描き笛を吹いていると我を忘

と、母は父を弁護していた。

増田家は古座の山の木を伐り出し

笛を吹いていて、 ビ時代劇のバックでも

天満宮夏渡御図(増田耕南)

ていたと父の死後、 川一夫には気に入られ

人から聞い

た。 又、

年 知

謙信になぞらえていた。 古座の富裕商人増田新助に嫁ぎ、 州田辺藩の家老だった、 父の母、 つまり私の祖母ゆきは紀

ていて退屈しのぎに本棚を漁っての旅行中、結婚した私の家に滞在 部屋に父が居るような気がした。 葉集評釈」にも書き込みをみつけた。 書いている。それを読んだ時、 をじっと睨んでいてハッとした。 「わたくすは今は罷らむ笛泣くらむ 「憶良らは今は罷らむー 「お父ちゃんや!」その後また「萬 そも三味線も吾を待つらむぞ」と -」を捩って 隣の

長谷 とよく言っていたのを思い出す。

ない

"よろずや"を代々営んで財を

でいた。その一方古座では一軒しか 古座川から太平洋に出て江戸へ運ん

絵や笛に"我を忘れる"父に代わっ

て親類が財産を管理した。そして増

の死後、文楽にのめり込む伯父と、 成したが、父の代で没落した。

母の仲を疑ったそうだ。生まれた父家に逗留していて、祖父は、彼と祖が生まれた。その頃お坊さんが増田 れたという。父は自分の境遇を上杉 と、使用人達と一緒に食事を摂らさ は祖父に疎まれ、親類中をたらい回 治八年に生まれた。美貌を買われて しにされたらしい。自宅に戻される 「そやからお父ちゃんは性格がいび 宮所家に明 父

史教科書を開くと「酒

「胡姫」

「西夏文

があって私の高校世界

数年前、

知りたいこと

キングを残している。

父はあちこちにマー

塗るのを私も手伝った。

五角形の板に砥の粉を の三畳に堆く積まれた 馬も描いていた。二階 末には翌年の干支の絵

今年の夏、近江先生からお電話を 没後の栄誉

て会った父方の又従妹から聞いた。 とを十五年前の父の葬儀の時、 田家は逼塞したのだそうだ。このこ

頂いた。 も名誉もなく、 ポスターになっているという。 〇三年に続いて二回目である。 して父は九十二年の生涯を終えた。 「夏渡御図」が天神祭りの 無名の貧乏絵描きと $\frac{}{}$

はない。 後世に名前が残るかもしれへ 今は風になった父に伝える術 んよ」

「お父ちゃん、

もしかしたら

没後の栄誉 天神祭りポスターに 亡父(ちち)描きし 伝う術なく



昭和45年 長女慶子の結納の日

- 9 -

天満天神勉強会の開催

おいて、月一回のペースで、 この一〇月から、

当宮梅香学院に

大鬼退治・その1」

「天満

座(一回九〇分)の「天満天神勉強会」 続を求める声が数多く寄せられたた 員が天神祭についての講義を行いま を開催することになったものです。 社の若手の勉強会を開催されたこと 鳳講の宮本善樹さんと、天神講獅子 天神勉強会」が開催されています。 の井藤雅之さんが発起人となり、講 ことの起こりは、去る四月一一日、 りで、 改めて、左記のような全一六講 ります。当初は、一回きりのつ ところが、その後、講義の継 文化研究所の高島幸次研究 ②鈴木幸人 歴史」、②柳野等(当宮禰宜) 「天神 学大学院准教授)「天神祭の空間演 ◆二月 四日 授) 「天神縁起について」 大学准教授)「天神画像について」、 ◆一月一七日 祭の神事」 ◆ 二 月 三 日

強しています。 四期の御伽塾)も兼ねることになり、 った天満天神御伽衆の養成講座(第 加えて、文化研究所で構想中であ おおよそ三〇名の受講生が勉

宮の創祀伝承・その1」 ◆ I ○月 二日 ①高島「大阪天満 講義日程と講師・講題 ② 高 島

「大阪天満宮の創祀伝承・その2」

一月八日

①高島「天神信仰と三

第四期御伽塾を兼ねて 信仰と三大鬼退治・その2」 ②高島「天神 高島「御迎人形と造り物」 ◆四月一一日 ◆三月|四日

①松浦清(大阪工業 ①高島 「天神祭の ②高島「天神祭の講とその活動」

幹事 佐野 淺井與四郎 秀む子

夕映えを連なる雁の影とほく 明日なる我の姿かと見る

滝徑のしぶきにぬれし岸壁に 幹事 松村 曉二

額から流るる汗を拭ふ度 滝の様だと母が呟く

大学教授)「菅原道真公の生涯」、② ①網干毅(関西学院 ①竹居明男(同志社

(北海道大学大学院准教

①中嶋節子(京都大

山峽に白く輝く滝仰き 遠代偲ばる熊野路に來て 選者

雲をまき風をおこしてたぎちおつ 那智の大瀧あかずあふぐも

大阪 滋保

大阪 中瀬 ②高島 「陸渡御と船渡御」

祭二、 総合学術博物館教授)「描かれた天神 ◆五月九日 ①橋爪節也(大阪大学 大学教授)「天神祭の聞きどころ」、 ② 高 島 「境内案内_

大阪天満宮献詠 平成二十一年下半期秀歌 風月社

むらさき淡き岩たばこ咲く

央子

何知らぬおさなの病ひとく癒えよ 神かけ祈るやさしき母

教え子の心嬉しきクラス會 長生きしてねと口々に言ふ 大阪 金生 久夫

寺の道露踏み行けばむらさきの 野菊の花に母を偲びぬ 東大阪 宝藏寺京子

庭さきに咲きしづまれる萩の花 白き赤きの風にゆれゐる 神戸 鈴木

野放途に繁る白萩こぼるるを 蜂が舞ひ來る父の墓前に 京都

飛翔せるつばめ素早く翻へり 盞の東屋に姿や見事 西宮 牛田眞理子

もず鳴けるけふ氏神の秋まつり あたりとよもす大太鼓の音 大阪 松村龍太郎

溯上せる紅鮭を食む親子熊 のこり狙ふを鴎飛び交ふ 東大阪 堺 中山 永田 里江

小雀のわが足元に降り來たり 話し掛くごと鳴きて飛び立つ 民子

熊野なる三筋の滝に眞向ひて われも心を洗はざらむや 大阪 西脇 か津



形スタンプラリ 本年の天神祭に合わせて「御迎人 厚く御礼申し上げます。 ー」を開催しました

様々な不都合が見つかりましたので、 別の人形の衣装が混入するなどの、 示した際、各人形の部材の不足や、 ところ、多くの皆様にご参加いただ しかしながら、一四体の人形を展 御迎人形の総合調査を

行ないました。

施しました。 が参加し、今昔館の特別展示室で実 究所研究員、 担当主査、 作業は、大阪市くらしの今昔館の 大阪府教育委員会の文化財 当宮の神職および文化研 および天満天神御伽衆

ついては、去る平成一五年に、当宮 み立てマニュアル」を作りました。 小道具について点検しながら、 けで組み立てて、部材の点検を行な ついて、衣装を着せずに、骨組みだ い、その後に、個々の人形の衣装や 実は、 作業手順としては、 「組み立てマニュアル」に 全ての人形に _ 組

いかに精緻な技術により作られてい

あの人もこの人も第二回 西松 薫さん

の副講元でもあります。 会長さんであり、天神祭「御羽車講」 を取り扱う「エヌエス株式会社」の さんは、天神橋筋で旗・カップなど 店街の西松薫さん(74) 今回ご紹介するのは、 です。 天神橋筋商 西松

お祖父様は当宮東門近くにお住ま 昭和26年ごろに 「福梅

> 訂することになったものです。 多く見つかりましたので、 ているのですが、今回の調査によっ から今昔館に寄託した際に作成され その初歩的な誤りや勘違いが数 大幅に改

とになりそうです。 た衣装・小道具類も一括指定するこ よび現在は使用されていない破損し 指定外の二体(雀踊り・豆蔵)、 阪府の有形民俗文化財に指定されて 蔵しています いますが、今回の調査結果を受けて、 今回の作業を通じて、御迎人形が 当宮では一六体の人形を所 ^。このうち一四体が大 お

雀踊・豆蔵

自身も、 て運営される「御羽車講」に参加さ られています。ですから西松さん御 講」を結成され、 れたそうです。 したが、のちに商店街が中心となっ 当初は「福梅講」の所属で 初代講元をつとめ

少なくありません。いつも、ご面倒的に社務所でお顔を拝見することが お世話を頂いておりますので、 や七夕祭りや、 連合会のホームページも担当なさる、 「花娘」のご担当でもあり、 イテクなお方です。商店街では 副講元のほかにも、 えびす祭には、 天神橋筋商店 天神祭 よく 日常

> 江戸 からも末永く受け継がれることを、 たちが、地域の皆様に愛され、 心より祈っております。 るのかを改めて思い知らされました 時代から守られてきたこの人形 これ

 $\Xi \\ \exists$ 戔嗚尊・佐々木高綱(実は真田幸村 津勘助・三番叟・猩々・鬼若丸・素 第一次調査 (一〇月二三日) 【対象】八幡太郎義家·酒田公時·木 一〇月二七日は休み) ~——月

第三次調査(一二月九日・ 第二次調査(一一月二六日~二八日) 【対象】安倍保名·与勘平 【対象】 胡蝶舞・羽柴秀吉・関羽 一 〇 日)

います、 なお願いをしてばかりなのですが、 いつも誠実に笑顔でご奉仕を頂いて

ただき、私たち神職も助けられる場 面が多く、 く氏子さんです 常に細かいところにもご配慮をい 何かと頼りさせていただ



の上の雲』と近藤南州

山 林 太

山好古・真之兄弟と近代俳句の祖正治日本の陸海軍において活躍した秋治日本の陸海軍において活躍した秋 年〈一九二二〉、なお、南州は名を元 成長と活躍を描いた小説であるが、 岡子規という、三人の伊予出身者の その冒頭「春や昔」の章に、近藤南 (嘉永三年〈一八五〇〉~大正十一 はないか)ともおもったりした。 て、 といった。近藤は苦笑したが、 (いくら小僧でも三円ではむりで 「ほな、あしの十倍じゃ」 好古の通称が信三郎。 信さんとは好古のこと。

古よりも九歳年長だからである。 ン」と呼ばれているのは、南州が好 危ぶんだと言うのである。 てその金額で生活できるだろうかと い。そのことを聞いた南州は、果しの旅費として三円しか所持していな すでに水田紀久氏「近藤南州と猶 家が貧しかった好古少年は、当座 「ニイサ

めて伊予を離れ、

大阪へ向かうので

あるが、その際、同じ船中に、南州

ばれるが、本稿では南州で統一する)

粋と言い、

小説中では近藤元粋と呼

という人物が登場する。

好古は数え年十七歳のとき、はじ

た『蛍雪軒叢書』をはじめ、中国のたった。また、中国の詩話を翻印し 塾猶興書院を開き、子弟の教育にあ 期の漢学者であり、 って紹介されるように、南州は明治 (本社報五一号掲載)によ 大阪の地に漢学

かぞえて二十六歳になる近藤元粋

「三十円ほどか」

Ł, るがの」

信さんは船中できいた。

はいった。信さんは目をまるくし の調査を進めているが、 筆者は、現在、

好古青年は、 六年)には、 場も桟橋もない三津浜の海岸に立つ

ば次のように描出されている。

「近藤のニイサンはいくら持っと

うのである。二人の様子は、たとえ

が乗っており、

好古と話をしたと言

経学や詩文に関する典籍を百点近い り大阪天満宮に寄贈された。

年、十一歳以降のものが、雑記につ具体的には、詩稿については万延元 多数含まれている(次頁写真参照)。 に見送られて、乗船場とは云へ波頭 第十七回の誕生日を迎えたばかりの のであろう。好古の伝記『秋山好古』 を検討するうえで役立つものもある。 おり、その中には、『坂の上の雲』 州が青少年期に著した詩稿や雑記が たり、中尾松泉堂および中尾書店よ の関係史料が、一昨年より二度にわ 数、校訂・出版している。この南州 に拠って二人の同道について記した いては明治期以降のものが残されて (秋山好古大将伝記刊行会、一九三 おそらく、司馬は、秋山側の史料 両親を始め親戚の人達 「かくて明治八年一月、 この南州関係史料 史料には南

> 藤氏が数十円の旅費を携へたるに反 粹氏と同道上阪したのであるが、 加えられる点がある。 考えると、両者の交遊に別の想像を とある。しかし、 ふ)を懐にしたばかりであつた。 彼は僅に八円 (略)好古青年は同郷の近藤元 南州側の史料から (或は三円とも云 _

漢詩は収録されていない。 稿や雑記ほどの多くの情報量は含ま 三一年刊、以下『詩文鈔』と言う) を収めた『南州先生詩文鈔』(一九 れておらず、とくに明治六年以前の があり有用であるが、これには、 なお、南州には、 その生涯の作品 詩

二人が出会ったのはこの時であろう 治八年の詩はいずれも大阪や堺周辺 作として「播磨舟中」「大和川を渡 面に相当する出来事が記録された南 す」と記されており、 州側の史料に好古の名は見えないが る」「浪華客舎偶成」などの大阪へ を挙げることができる。 州側の史料として、詩稿『客遊詩存』 八年一月のこととする『秋山好古』 れる年譜には「十二月、大阪に卜居 で作られている。同書をはじめ、 の旅中で作られた詩が収録され、 もっとも、 まず『坂の上の雲』に描かれた場 『詩文鈔』冒頭に付さ 大阪行を明治 明治七年の 南 明

いることからも明らかである。 明治初年まで途絶えなく作成されて

で東京の儒者芳野金陵のもとに遊学受け、明治三年七月から四年十月ま ことができるそれと矛盾していない物像は、南州側の史料から読み取る『坂の上の雲』における南州の人 タックセーメックをとめるなどしている(『東紀行文にまとめるなどしている(『東 時には、日光山に游び、その様子を まで藩校明教館で学んだ彼は藩命を 言えよう。明治元年六月から同二年 経歴を考えた場合、 として描かれているが、 たとえば、南州は経験豊かな年長者 している(『詩文鈔』)。東京滞在 あり得る描写と これは彼の あり、 発言の描写には、ややもの足りなさ だ、次に見る南州の学問についての 射たものだったと言えるのだが、た 司馬が描く南州は、おおむね的を

(Manual Andrews And

の「播磨舟中」詩には、 の「播磨舟中」詩には、

である)などのことに起因するもの治八年一月は旧暦の明治七年十二月

ではないだろうか。

南州の

どちらに拠って書いたか(新暦の明

が、これは記憶違いや新暦と旧暦の の記述とは一ヶ月程度のずれがある

たかもしれない。

いうものであった(『己巳詩稿』)。須磨を経て夜に淀川をさかのぼると 阪までの道程は、白石港(現在の岡海道を経て東京へ向かっている。大 はすでに経験ずみの道程であった。 好古と共にした船路は、彼にとって 玉野市)を経て播磨灘を進み、明石、 山県笠岡市)に泊まり、 また、南州と好古とを家財の点で 遊学に赴く際、南州は大阪から東 日比港 同 を覚える。 をいった。 「すべて薩長の世じゃけん」

い。ただ、 学問で身を立てることの重要性を

がいたが、長兄南洋は藩校明教館の授であった。また南州には二人の兄 ぎ六行舎に入っている(『愛媛県史』) 教授となり、次兄南崧は父の跡を次 南州の父近藤名洲は、心学の大家で 者という特殊な家系に育っている。 一九八二~九年刊)。 そもそも南州は一家そろって教育 藩が運営する学舎六行舎の教

をあげられぬ。学問のなかまで「伊予者などは学問のほかは頭 と、元粋は船中でしきりにそれ

薩長は入ってくるまい」

は、明治五年頃に構想された漢文作考えはより複雑であった。そのこと 説くというのは、教育者として生き た彼の生涯から考えても似つかわし 明治初年における南州の

える。 品「学術」(『詩文鈔』) からうかが

上で、 新たな時代の学問のあり方を、この 主張にはやや道学臭い点もあるが、 に反省をうながしているのである。 が多々あることを批判し、学者たち ど、この学問の大目的に適わない点 的な目的であると説いている。その 頃の南州は、相当の確信をもって思 は義を重んじると論じるなど、 典や歴史の解釈にばかり没頭するな を鵜呑みにし、国学者や漢学者は経 て、洋学者は西洋の学者が言うこと ために役立つことこそが学問の究極 所や一なり。 い描いていたと言えよう。 のみ」と規定し、 もっとも、西洋は利を尊び、 南州は、学問について「人の学ぶ 当時の日本の学問状況につい 亦た其の治の何如を 其の極功を治家国天下 天下国家を治 顧みる その 東洋 める

治日本の発展に尽した好古をめぐる 騎馬部隊の将として独自の方法で明 がよかったのではないか。その方が すべきだ」といった内容とするほう れば、こうした、「国家社会に貢献 するため、学派などに囚われず精進 学問について南州に語らせるとす

丁卯請稿から 若等情 治 杨光 ができた。そのことは南州の詩稿が州は恵まれた環境で学問に励むこと ことができなかった好古に較べ、南 対照的に描いたことも間違っていな い。家の貧窮のため一時学校に通う

ある。

同じ光景を好古も目にしてい

には明石城が見える、という内容で

ら播磨の山並みの緑が見え、梢の先 故郷へ思いを馳せる。すると、海か

遊紀勝』)。

と記されている。船端に波がぶつか

音を立てるなか、

苫をかかげ、

楼台は明石城」

中尾松泉堂・中尾書店より寄贈 南州が青少年期に記した詩稿類

- 13 -

- 12 -

されたものです

さすがに、

当代の人気者の参拝と

練り歩いた後、当宮でヒットを祈願

ベントとして、

天神橋筋商店街を

同月一四日の封切りに先だつ宣伝

拝されました。

(監督・水田伸生) に出演の阿部サ

7 るなど、

いま

一月五日、

映画『なくもんか』

は、

映画さながらのハ

映画のアピー

ルに努められ ムカツを頬ば

実現しようとしたのが、

神仏霊場会

ることで、我が国独自の信仰形態を

そこで実際に神社・寺院を巡拝す

二丁目の

「中村屋コロッケ」の前で

商店主らの声援の中を進みました。 竹内さんらは、数多くの買い物客や

生的に起こっています。

が神道界、仏教界の双方から自然発 本来あるべき姿に戻そうという気運 神と仏に対する信仰を真摯に見直し、 って我が国の伝統的信仰形態である

れたのです。

 \sim

ットが敷き詰められ、

阿部さん、

まで九一二・九メートルの赤いカー

当日は天神橋四丁目から当宮近く

、ヲ・竹内結子さんたちが当宮に参

あって、

その様子は、

テレビや新聞

ご覧になった方も多

シいかと思

11 、ます。

などで大きく報道されましたから、

前宫司

寺井種茂大 前宮司が帰幽して二十年となる今 正辰である十一月十六日に二十

親族、 参集を得て厳修することができまし 年祭を斎行いたしました。 生前に親交のあった斯界の方々、 旧職員など遠近一七〇名余の

御霊祭

午前十一時からの御霊祭は、 前宮

> はじめ、 教教主 ٢, 参列を以て斎行されま した。 会館牡丹の間に、黒住 律人元袮宜の斎主のも は当宮参与である豊住 人を奉仕して、天満宮 の学友であり、 現職員が祭員・楽 親族六〇名の 黒住宗晴様を 現在

供膳として、 次いで、 と日本酒 であった「このわた」 修祓、 生前にお好み 0 拝、献饌に 「白鷹」が 秘書役の

糸数智子: となどが霊前に報告され とその後二十年のできご られた後、 権祢宜から献じ 前宮司 斎主の祭詞が の功績

井種伯宮司から感謝の

続いて石清水八

講社連合会

串を捧げて拝礼し、 参着次第、 御霊祭の後、

一時三十分から

様、 顧問・天神祭実行委員長の京極俊明 ことばが述べられ、 幡宮の田中恆清宮司様、 祭主である寺

奏上され、 ました。

の孔雀の間に進まれまし 思い思いに玉 会場

8 É

参会者は 級生で、群馬県からお越しになりま お進め申し上げなさいました。 を頂戴しました。 長の下村銭三郎様から、 て同じく同級生で、 しの中嶋秀人様が、 した浦野眞一様と、 次に勧盃役として、 大阪天満ライオンズクラブ元会

が始まり、 初

長の湯浅正敬様の献盃の御発声をも

前岡山県神社

御霊前にお酒を 長崎県からお越

続

神宮皇學館同

偲ぶことば

って直会が開かれました

偲ぶ会

ぶ会」

昭和53年 4月 國學院大學協議員 昭和54年 3月

神職身分一級浄階位を受く

工事執行

一過し方を辿る

徳子(母)の長男として生る

神宮皇學館普通科卒業

國學院大學專門部卒業

関西大倉高等学校を退職 大阪天満ライオンズクラブ設立

天満宮権宮司拝命

(チャータメンバー)

大阪府神道青年会会長

学校法人浪速学院理事

財団法人大阪國學院理事

神道政治連盟大阪府本部長

御神退千七十五年式年大祭を記念し

本殿・幣殿・拝殿・参集殿外営繕修復

天満宮宮司拝命 梅香学院院長

神職身分二級上

紺綬褒章受章

天満宮会館竣成

皇學館大学評議員

大正15年11月27日 京都市上賀茂にて種長(父)

昭和19年 2月

昭和23年 3月

昭和26年10月

昭和37年 3月

昭和37年 9月

昭和38年 3月

昭和39年 9月

昭和43年 9月

昭和44年 3月

昭和45年 9月

昭和51年 6月 昭和52年 7月

昭和52年 8月

昭和59年11月 文華館游成

昭和61年 7月 ライオンズクラブ国際協会

三三五一B地区デピュティガバナー 昭和61年11月 日本宗教委員会(永職会)委員長

昭和62年 3月 梅香学院改築及び参拝者駐車場新設 全国天满宫梅風会会長 昭和62年 6月

神道政治連盟中央本部副会長 昭和62年 7月 学校法人大阪國學院理事長

昭和63年 2月 神社本庁規定第二条第一号表彰を受く

平成元年11月 平成元年12月

神職身分特級 内閣総理大臣より盃一組を賜与せらる



がら、 咲き、

思い出話に花が 霊の御平安を祈 跡を偲びつつ御 を捧げ奉り、 続きました。 面される方々も 念申し上げます の功績を辿り も和やかな会が 日の種茂宮司の あって、在り ここに前宮司 感謝の誠 いつまで な

ポスターを参照ください れることを願っています (裏表紙の

映画

「なくもんか」

■ 史上最長のレッドカーペット

この映画は、昔ながらの商店街を

祈願

舞台に、

ハムカツ屋を営む主人公と

日本人の信仰は、

我が国古来の神

仏

霊場会

0)

ご案内

後 記

合調査の期間中に、 の二体が、 頁に紹介しました御迎人形の総

道満大内鑑 月三一日~一 に出品されました。 で、その出演者である二体が展示さ ちかがみ)が公演されたのにちなん 同劇場の「錦秋文楽公演」 (あしやどうまんおおう 国立文楽劇場の展示室 一月二三日)で「芦屋 安倍保名と与勘 $\widehat{}$

の後、

当宮に参拝するという企画で

仏が分離されるようになり、

やむな

く崩されてしまいました。近年にな

した。

街に、

史上最長の「レッドカー

ペッ

この伝統的な信仰形態は明治維新

本一長い商店街である天神橋筋商店

ンコ盛りの家族の物語です。

そこで、

映画の舞台にちなんで日

0

神も仏も、

ともに尊敬する

て独自の信仰形態を築いてきました。

仏教が交流することによっ

という信仰形態です。

その家族が巻き起こす笑いと涙がテ

ト」を敷いて出演者が練り歩き、

そ

の後、

「神仏判然令」によって神と

子別れの段」をご覧になりました。 天皇皇后両陛下が同公演の「葛の葉 一体の御迎人形もさぞや驚いたこと そして、 一一月一七日には、

して、 平成二十年に伊勢神宮をはじめと 社寺巡拝です。 関西を中心とした一二五社寺

当宮に到着 も、魅力ある信仰の場として親しまの我が国を担う若い人たちにとって 支えられますように、 を浴びています。 ガイドブックを製作し、 〇余の社寺の加盟を得て、 が設立した「霊場会」は、 この社寺巡拝が、

の絵馬を奉納 持参した特大 を祈った後に、 映画のヒット 本殿において されていまし 真剣な表情で した一行は、

大阪天満宮社報

てんまてんじん 第 5 7 号

発行所 発行人 平成22年1月1日発行 成21年12月20日印刷 大阪天満宮 寺井種伯 社 務 所

次第に脚光

朱印帳や 現在一五

多くの信仰心に

特にこれから

530 0041

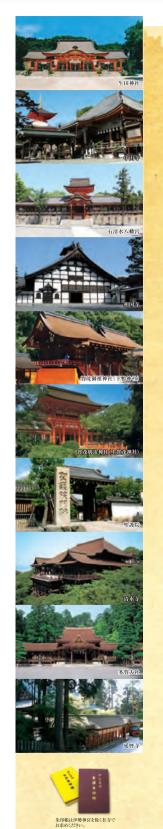
大阪市北区天神橋2

印

久しぶりに対

百

四十年の時を超えて



神仏霊場が手に対するのと心の旅路

神仏霊場巡拝は、公共交通機関(電車・バス)をご利用ください。 神仏霊場会 http://shinbutsureijou.net/ お問い合わせ/077-578-0521 神仏霊場会事務局(延暦寺内)

